

風のように

甘木教会

主任牧師：白川道生

牧会委嘱牧師：竹田孝一



これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者

マタイによる福音書3：17

【説教要旨】

2026年の新しい人生の歩みを始めて数日がたちます。この一日、一日の積み重ねがそれぞれの齢となっているわけです。この齢にイエスさまは寄り添ってくださいます。

イエスさまの物語は誕生から、幼少、子供という時代については短く記されていますが、公生涯の30歳から物語が、いっきに新たに展開していきます。

幼少、子供という時代については短く記されているのは、どうしてだろうかと思うのです。きっと福音書記者らが書きとめ、伝えるほどのことはなかったのでしょうか。

では、この沈黙に意味がないのだろうかということです。いやむしろ深い意味が隠されているように思えます。私たちのごく当たり前の人生の歩みと同じようにドラマにならないドラマをイエスさまは公生涯まで歩まれたのです。それは、イエスさまは、まったく私たちと同じように生きられたということです。「神の子を固守することなく」、あるいは「言（イエス）は肉となられた」とありますように人の子として、イエスは、苦楽を過ごされたということです。「私たちの間に宿られた」というように、私たちと同じ時間、所に生きているということです。くだらないと思うような人生であってもここにやはりイエスさまは生きて一緒に歩んでいてくださっていることではないでしょうか。

イエスさまが近づいてきてくださる。そして歩みを一緒にしてくださるということです。

私たちのごく普通の人生において苦も楽もあります。時には神がどこにいるかというような状況におかれる場合がありますが、しかし、神が近づいてきてくださり、一緒に歩んでいてくださるということを、イエスさまを通して、神は語ってくださいます。

自分の小さなくだらない人生を振り返ってみても、イエスさまが出会ってくださり、そばで寄り添って、導かれて、一人ではとても越えられなかつた人生の壁を越えさせていただいていると強く感じています。赤子のイエスさまを見た、シメオンはこう讃美します。「主よ、今こそあなたは、お言葉どおり、この僕を安らかに去らせてくださいます」という心境に導かれてきています。

公生涯の初めは、ヨルダン川に洗礼者ヨハネの洗礼を受けるためにイエスさまはやってきます。「エルサレムとユダヤ全土から、また、ヨルダン川沿いの地方一帯から、人々がヨハネのもとに来て、罪を告白し、ヨルダン川で彼から洗礼を受けた。」とありますように多くの罪を告白する人の群れの中にイエスさまは来られたのです。罪人の列の中に入られたのです。「罪びとに数えられた」と聖書にあるように罪の底に沈まれ、限りなく低みへと下ってくださいました。私たちの持つ罪、弱さ、貧しさへの限りない理解と共感、憐れみがあります。「キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。」と聖書は記しています。

洗礼者ヨハネはイエスの洗礼を止めようとされます。「ところが、ヨハネは、それを思いとどまらせようとして言った。『わたしこそ、あなたから洗礼を受けるべきなのに、あなたが、わたしのところへ来られたのですか。』しかし、イエスはお答えになった。『今は、止めないでほしい。正しいことをすべて行うのは、我々にふさわしいことです。』そこで、ヨハネはイエスの言

わわれるとおりにした。」

「僕の身分になり、人と同じ者になられました」とあるように私たちの罪をご自分の罪として、私たちの悔い改めをご自分の悔い改めとされたのです。限りなく低み下ってきてくださいり、愛を示されました。愛に貫かれた人生がイエスさまの人生で、今を生きる私たちにもこのイエスさまの愛が貫かれているのです。

「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」とイエスさまにかけられた声は、私たちにも与えられた声です。

この声はイエスさまが神さまに愛される者に相応しい立派な人だからということで、これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者という声をいただいたのではありません。私たちのただ中、罪の中にイエスさまは身を投じて、神の愛、神の恵みを見える形、洗礼をもって示されたということでわたしの愛する子、わたしの心に適う者とくださったということです。イエスさまの愛に沈められ、聖霊の働きによってイエスさまとともに天の父に愛され、そのみ心に適う者とされているのです。

この恵みを生きるものとして、今年も私たちはそれぞれの人生の歩みをなすことがゆるされているのです。

傷ついた葦を折ることなく／暗くなつてゆく灯心を消すことなく／裁きを導き出して、確かなものとする。 イザヤ42:3

神がイエスさまを通して語り、なされたように、日々、私たちを傷ついた葦を折ることなく／暗くなつてゆく灯心を消すことなく生きるように私たちの日々に寄り添ってくださいます。神のなされる、洗礼という恵みのわざに喜び、感謝して歩んでいきましょう。

最後に洗礼について考えていきましょう。人間の罪を赦そうという神のみ心が、洗礼の水となって、それを真心から信じる人の罪を洗い清めるのです。つまり罪のゆるし、これが洗礼です。ですから、洗礼は人の罪をゆるそうという全く神の恵みですから、洗礼とは言うならば「神の恵み」のしるしです。

(「真理を求めて」江口再起著 日本福音ルーテル教会)

牧師室の小窓からのぞいてみると



トランプ・アメリカ大統領がベネズエラを軍事攻撃をし、独裁者の大統領を力で拘束してアメリカに連れて来て、麻薬犯罪の罪で裁くという。

しかし、「トランプ氏が言う力による平和は一つ間違えば弱肉強食ということと同じ意味になります。それは世界にとって悲劇以外の何者でもありません。」と大越健介氏は、報道ステーションで結んでいる。

これでは、力ある者が力をもって支配する暴力の世界がまかり通ることになります。今、ロシア、中国、アメリカという大国は、世界秩序を壊し、大国のエゴをまるだしてある。

まさに、今の時代、ルターが大切にしていた「良心」がこの暴力の前で試される時代に突入した。

教会にとって、試練のとき、忍耐のときになったのかもしれないが、今一度、「良心」とはと問い合わせていく時ではないだろうか。

園長・瞑想？迷走記



時代のすごい変化の中で、幼児教育・保育も日日、これで良いのか問われている。

柴田愛子先生が、「それって、保育の常識ですか？」という本の「園はサービス業？」という項で、「できないことをやってくれるのが保育園、幼稚園。わからないことは教えてもらって、自分でやってみる。そうしていくことで子どもの育ちがわかっていくというのは、面倒でいやな人が増えつつあるようです。」と言われている。できないことをやってくれるのが保育園、幼稚園ということで、現代の幼稚園の経営状況を考えると応えていかなくてはいけない。しかし、柴田先生が言われるようこれが常識ですかと自問自答している。

今の時代だから「それって、保育の常識ですか？」と問いつつ、真実の教育・保育を追求していく時代が始まったと思う。

日毎の糧

聖書：どうか主が民に力をお与えになるように。主が民を祝福して平和をお与えになるように。 詩篇29:11



ルターの言葉から

この世の権威は神が憐れみ深く、いかなる殺人も喜ばない、神の恩恵のしるしである。

『卓上語録』M.ルター著、植田兼義訳、教文館

平和をお与えにー平和を置く

先週の詩篇で、「あなたの国境に平和を置く」と詠っていました。「神への賛美」を呼びかける。2部の特徴は10節から11節にある。『神が喜ばれるのは軍事力でなく、目にみえない神を畏れ、神の慈愛に望みを託す人たちである。・・・・ヤハウエによる救いは軍備によらない、という思想は旧約聖書全体を貫く（サムエル上17：47、ホセア1：7、詩篇44：7他）。』それが『剣を取る者は剣で滅びる』（マタイ26：52）というイエスの言葉に結晶する。」①と紹介しました。今日の詩篇は、「平和を実現する人々は、幸いである」とイエスの言葉を実現するために、「どうか主が民に力をお与えになるように。主が民を祝福して平和をお与えになるように。」と祈る。

地上は、「荒れ野をもだえさせ」というように、荒野のような命なく、苦しみの中で「もだえ」が起きている。神の平和が実現しますようにと祈ることは今日の私たちが最ももとめていることではないだろうか。

神の慈愛に望みを託す人たちを祝福し、平和を作る力をくださいと真剣に問わざるを得ない、今日の世界がある。真実のキリスト者は、平和を希求する人類の試金石であり続けなければならない。

①（「詩篇の思想と信仰VI」月本照男 新教出版）

祈り：今日の混沌した戦いの時だからこそ、私たちに平和を作り出す祝福と力をください。アーメン。

甘木通信

結局、知恵も知識も狂気であり愚かであるにすぎないということだ。これも風を追うようなことだと悟った。知恵が深まれば悩みも深まり、知識がませば痛みもます。

コヘレトの知恵



2026年も戦いから始まった。トランプ・アメリカ大統領が軍事攻撃し、主権国家のベネズエラの大統領を麻薬犯罪で、アメリカまで連れて来たということである。一つ間違えば弱肉強食ということと同じ行為となり、大国の意図でどうにもなるという混沌した世界が予想される。これが可能になったのは科学技術、軍需技術の発達です。皮肉にも人類に知恵、知識が増せば、悩みも深まり、痛みが大きくなつた。

世界は、知恵、知識が増すごとに何が起こるか分からにところまで来ている。科学技術の発達によりますます、世界は技術を手に入れた富ある者、力ある者と、ない者の格差が拡がり、そこに大きな対立が起り、人は滅びるだろう。

「わたしはまた、一匹の獣が海の中から上ってくるのを見た。・・・黙示録13章」

一匹の獣であるトランプ大統領、習主席、プーチン大統領は、世界を滅びに近づけているのだろうか。こんな時代だからこそ、「私たちの主であり、師であるイエス・キリストが、『あなたがたは悔い改めなさい・・』と言われたとき、彼らは信じる者の生涯が悔い改めであることを欲したもうたのである」というこの原点に立つことだと思っている。

(甘木日記)土) 午後から甘木教会。庭の掃除、主日の準備。泊。日) 2026年度最初の礼拝。会計監査、壮年会、女性会。月) 冬季預かり保育の幼稚園に行く。職員も多いので、午前中までいて帰ってくる。火) 昨日と違い職員が少なく、預かり保育の子どもが多く、早朝から幼稚園に行く。水) 3学期の準備の職員会議、26年度の準備。ただ厳しさだけが浮き彫りになる。「苦難、忍耐、練達、希望、聖靈によって神の愛が注がれる。」木) 羽村幼稚園とzoom会議、日善幼稚園の新学期礼拝、松崎保育園に新年の挨拶、最後に甘木教会で聖務。よく働き、よく動くはと。金) 幼稚園は、餅つきである。保護者も協力をくださり、楽しく餅をついた。今週もよく動き、よく考えた。そしてよく祈った。

おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。 はぐちらない聖人（牧師）もいますが。

土）甘木教会滞在日。午後から行き、主日の準備。やっと「司馬遼太郎、と藤沢修平：歴史と人をどう読むか」という本を読み終える。今年もドイツ語のローズンゲン（聖書日課）を読む。ボケ防止。「脱原発の視点で聖書を読む」という本の題名が気になる。「聖書の視点で 脱原発を読みとく」なら理解できるのですが、このへんが世代ギャップかもしれない感じ。明日の茶話会のお菓子を0時前に買いにいく。「九州味・・」にひかれる。日）2026年の初めの礼拝、小さな子供の声と動く音、癒される。お年玉を。私の子どもたちも教会の方々からお年玉をいただいていたことを思い出す。教会の方々に育てられた。感謝。今回は花壇にビオラではなく三色堇を植える。カモミール、菜の花の種をまく。芽をだしてくれる嬉しい。帰りは電車の中でこっくりこっくり。明日は行きたくないという気分。月）冬季預かり保育の開始、子どもも少ないが、年初めで、幼稚園に行く。職員も多いので、午後に帰ってくる。行く途中の日吉神社は仕事始めのお祓いを受ける会社員で神社が狭い。幼稚園の向かいの会社の社員がぞくぞくと来る。火）昨日と違い職員が少なく、預かり保育の子どもが多いのは、会社も動き出したということか。早朝から幼稚園に行き、最後までいる。水）個人面談、職員会議、3学期の初めは同時に26年度の準備のとき。幼稚園にとって両園とも厳しい時代になっている。厳しいゆえに、本当なことを求められている。久留米の祭り日本三大火祭に幼稚園運営委員長夫妻が誘ってくれる。そこで、1月7日、七草粥を食べる。「美味しい」と言って食べたチョコが送られてきた。「美味しい」という声を聞いて、忘れなかった方の心に感謝。今は全てに厳しい状況にいるが、甘い気遣いもいただく。多くの方の出会いを感謝。木）羽村幼稚園とzoom会議、日善幼稚園の3学期礼拝、松崎保育園にミスターードーナツをもって新年の挨拶、最後に甘木教会で聖務。大きな落ち葉を捨てる穴を信徒さんが掘っていて下さる。掃除、草取りがし易くなる。さっそく草取りにとりかかる。また、木曜日に園長先生がいつも来てくださっている。感謝。今はどこの幼稚園でも財務をしっかりさせたい。つまりお金が欲しい。働けど働けど貧乏なりき。激変する社会で



どうすれば財務を安定させて教育・保育が保証できるかということばかり考えている。今日は久しぶりに甘木鉄道に乗る。久留米から西鉄本線・小郡、ここで乗り換え、甘木鉄道で松崎、そして、甘木。帰りは西鉄甘木線。金）多くの人に手伝っていただき、園児は、楽しく餅つ（西鉄甘木線）き。今週から幼稚園も始ましたが、よく動き、よく考え、よく祈った。